

事業コード	H18-建-継-16		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)湯沢栗駒公園線		担当課長名	檜森悦朗
箇所名	湯沢市黒滝橋		担当者名	主幹(兼)班長 木村正
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H16 ~ H22 (7年)	総事業費	9.6億円	国庫補助率	0.55	
事業規模	延長L=640m 幅員W=5.5(8.0)m					
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、栗駒国定公園や泥湯温泉等の観光拠点へのアクセス道路であるとともに、バス路線及び緊急輸送道路など沿線集落の日常生活を支える重要な路線である。</p> <p>しかし、当該区間は幅員狭小(車道幅員5.0m)で線形も悪く(最小曲線半径12m)、急坂路(最急勾配9%)のため大型車のすれ違いや冬期交通の確保が困難な状況である。</p> <p>そのため、秋田県南部の広域的周遊型観光の利便性向上の他、地域の交通の安全を図るため、道路整備を行うものである。</p>					
事業目的	<p>交通隘路区間の解消(幅員狭小、線形不良、急勾配)</p> <p>道路の防災対策・危機管理の充実(第2次緊急輸送道路)</p> <p>冬期末改良区間の解消</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	960,000	960,000	0		
	経費内訳	工事費	917,000	917,000	0	
		用補費	17,000	17,000	0	
		その他	26,000	26,000	0	
	財源内訳	国庫補助	528,000	528,000	0	
		県債	410,000	410,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源	22,000	22,000	0			
事業内容	調査・設計 用地買収補償 橋梁工 改良舗装工	調査・設計 用地買収補償 橋梁工 改良舗装工				
事業の進捗状況	用地買収が完了し、現在改良工及び橋梁工に着手している。					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業湯沢横手道路「須川IC」					
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に旧湯沢市・稲川町・雄勝町・皆瀬村が合併して、湯沢市となった。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	路線冬期幅員確保率				
	指標式	冬期幅員確保率(幅員確保済延長/路線実延長)				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	46.4 %		データ等の出典	道路現況調書	
	実績値 b	43.9 %				
達成率 b/a	94.6 %		把握の時期	平成18年7月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は、幅員狭小(車道幅員5.0m)のうえ、急カーブ(最小曲線半径12m)及び急勾配(最急勾配9%)の連続であり、冬期堆雪幅が確保されておらず、道路構造上の欠陥箇所が多数存在する。	8点
緊 急 性	平面線形の不良、急勾配により大型車のすれ違いが困難な危険な状況であり、特に冬期にはその度合いが著しく、日常生活や観光開発に支障をきたしていることから、早急な道路整備が必要である。	9点
有 効 性	緊急輸送道路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。 栗駒国定公園と湯沢横手道路及び国道13号を連絡する路線であり、整備後の有効性は高い。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は、1.81であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 911百万円 ・総便益の現在価値 1,653百万円 計画日交通量は1,560台となっている。 事業費については、発生土の流用について他部局、周辺市町村と連携をとりながら再利用を積極的に実施し、コスト縮減に努めている。	20点
熟 度	用地買収が完了しており、橋梁工に着手していることから、計画通りの進捗である。	15点
判 定	ランク () 湯沢横手道路と栗駒国定公園を連絡する観光支援道路である他、地域住民の重要な生活道路であり、「有効性」「効率性」の項目で評価点が高く、引き続き実施すべき事業である。	82点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H18-建-継-16)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (湯沢市黒滝橋)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数				
	・車道幅員 < 5.5m	3箇所以上	8	8	
	・最小半径 < 100m	2箇所	6		
	・最急勾配 > 5%	1箇所	4		
	・冬期堆雪巾なし	0箇所以上	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7		
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6	0	
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	8	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無				
	・県の主要プロジェクト	あり	4	4	
	・地域振興プロジェクト				
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	0	
		位置づけなし	0		
交通量	増加している	3	0		
	増加していない	0			
特有の課題の有無	あり	5	5		
・老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	9	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
	該当しない	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	30	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)				
		1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量				
		1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
コスト縮減					
	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響					
	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパス e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)				
		8割以上完了	10	5	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
		用地買収の進捗(面積)			
	8割以上完了	10	10		
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	15	
合計			100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		